八十里越現場見学会（体感バスツアー）を通じたインフラツーリズムの取り組み

青木　泰志[1]・志田　和弘[2]

[1]北陸地方整備局　長岡国道事務所　計画課　　（〒940-8512 新潟県長岡市中沢4丁目430番地1）

[2]北陸地方整備局　長岡国道事務所　建設専門官（〒940-8512 新潟県長岡市中沢4丁目430番地1）

2012年の県境トンネル概成により、工事用道路として使用している国道289号の一般車両通行禁止区間の他、新たに道路として造った部分、構造物等の工事完成により概成した部分等の通り抜けが可能となりました。これを受け、三条市が事業の必要性を知ってもらうための現場見学と観光をセットに「秘境八十里越体感バス～感じよう、あふれる自然・歴史ロマン・未来へつなぐ土木技術～」と題し2013年にツアーを開始しました。これは、体感バスツアーに対し長岡国道事務所が協力した経緯と、現在の状況、今後へ向けた期待について報告するものです。

キーワード：八十里越，インフラツーリズム，地元自治体への協力，地域連携，担い手確保

1. はじめに

国道289号は、新潟市を起点に福島県いわき市に至る約280kmの道路です。このうち新潟・福島県境部の通行不能区間解消を目的に、新潟県三条市～福島県南会津郡只見町まで延長20.8kmを「国道289号八十里越」として、新潟県、国土交通省、福島県がそれぞれ事業区間を分けて工事を進めており、長岡国道事務所では県境部を含む地形的に一番厳しい部分の約11.8kmを担当しています。

●長岡国道事務所担当区間（約11.8km）の特徴

・事業区間の高低差：約370m

・橋梁：10箇所で約1.1km（最長は337m）

・トンネル：11箇所で約9.3km（最長は3,168m）

・ロック・スノーシェッド：10箇所で約0.7km

八十里越事業は、1986（昭和61）年度に国が直轄権限代行事業に着手して以来、30年以上の長きに渡り事業を実施しており、事業完成（供用開始）に向け鋭意事業を推進しております。

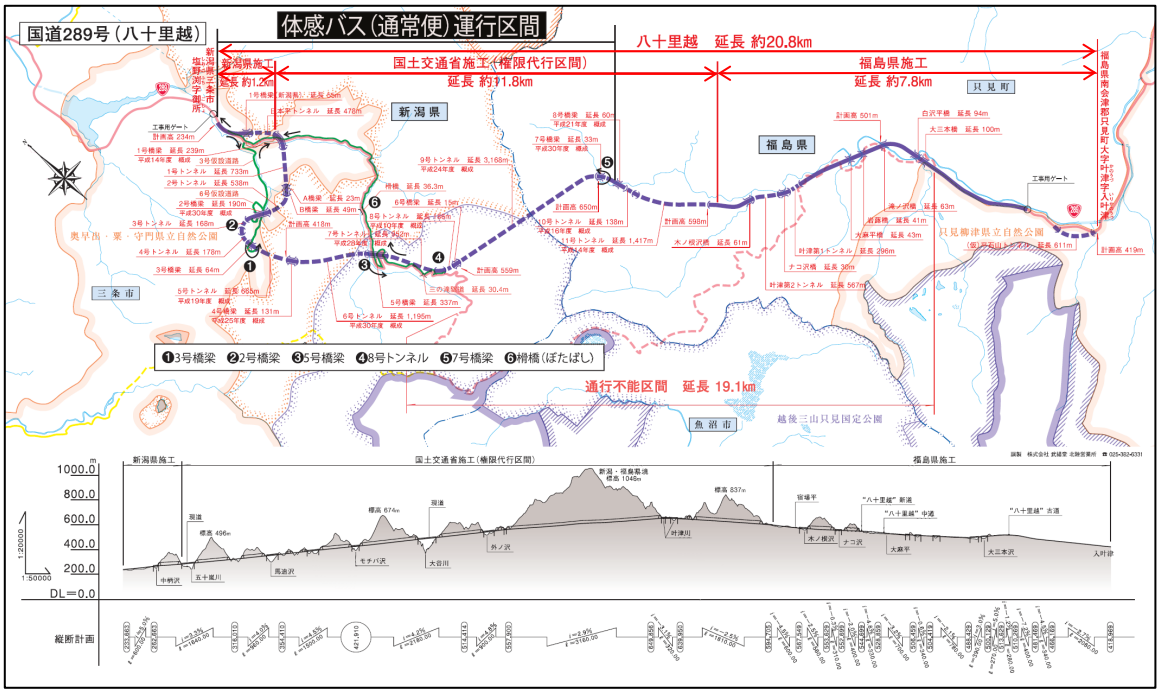


図-1　国道289号（八十里越）平面図と体感バス（通常便）運行区間

2. 八十里越現場見学会（体感バス等）経緯と概要

2010年度に県境トンネルが貫通したことにより、工事用道路等を活用し、限定的であるが新潟・福島両県の往来が可能となりました。これを契機に、地元である三条市と只見町を中心に国、新潟県、福島県、商工会、観光協会等で構成する「八十里越道路暫定活用検討懇談会」が設立され、三条市から現場見学会と観光をセットにしたツアー実施の申し入れがありました。

三条市では、ツアー参加者に八十里越事業の必要性や目的を知って、福島県の近さを体感してもらい、早期開通に向けた気運を高めること、日頃は体感できない土木技術の迫力や、工事期間中しか見ることができない自然景観等、非日常の特別感・満足感を観光資源に結びつけ、交流人口拡大を図ることを目的に体感バスが企画され、2013年に運行が開始されました。

体感バスの通常便は、新潟県側の工事用ゲート（事業の起点）を起・終点とし、県境のトンネルを抜けた標高の一番高いところで折り返す半日（午前・午後）運行となっていますが、工事の進捗状況によりコースの見直しを行っています。

近年では新たな取り組みとして、通常便の他に宿泊便による通り抜け運行を始め、檜枝岐村の奉納歌舞伎見学と組み合わせたツアー等、伝統芸能や地域文化を資源とした観光交流も盛んになってきています。

また、只見町においても、国道289号の起・終点となっている新潟市（日本海）～いわき市（太平洋）のフルコース踏破や、三条マルシェ（人が集まり、楽しむ空間としてのイベント）への参加等、日本海側の自然や新潟県内の商・工・観光業に関する交流と併せた現場見学会が企画・運営されています。

3. 長岡国道事務所の対応内容

八十里越事業区間は、冬期の積雪が多く春期は残雪による雪崩や猛禽類の繁殖への影響等、自然環境への配慮が必要なため、5月中旬～11月下旬の半年程度しか施工期間を確保できません。

また、体感バス等の運行経路は、落石、地すべり箇所等がある上、狭隘で線形も悪いことから、車両通行には十分な注意が必要です。

そのため長岡国道事務所では、工事工程への影響を最小限に抑えるとともに、工事現場内を安全に通行し、現場見学会に参加した方々に事業の効果や必要性、現在の状況を確認していただくことで、事業への理解と協力、土木技術の継承・啓発につながることを期待しています。

地元自治体等への協力については、安全かつ効果的な現場見学会が実施できるよう、様々な条件確認と整理を行い、各種要領やマニュアルを整備した上で、次に示すとおりソフト&ハードの両面から協力を実施しています。

写真-1　工事用ゲート（新潟県側・福島県側）

写真-2　体感バス等の運行状況

写真-3　景観鑑賞ポイントの樽橋（ぼたばし）

写真-4　看板や模型を用いた事業説明

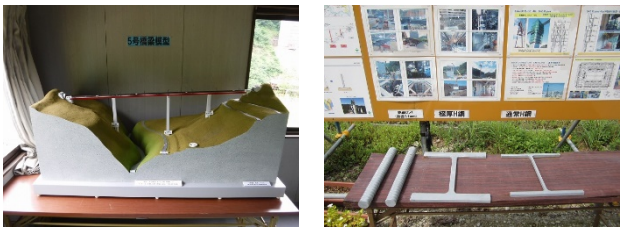


写真-5　模型・材料等のサンプル（施工業者の協力）

写真-6 ヘルメット貸与の状況

トンネル貫通石のストラップ

(1) 基本的事項や中止基準等の取り決め

見学会は、概ね6月中旬～11月上旬までの期間内で、工事への影響が少ない土・日曜日の開催を原則とする基本的事項や、気象条件等に基づく中止基準を定め、現場見学会を主催する三条市等と覚書を取り交わし、実施に関する処理細則を作成しています。

●覚書の主な記載内容

・実施体制
・工事用道路通行の手続き
・見学会の中止
・見学箇所の変更
・事故、災害に対する対応
・緊急時連絡体制の確立等

(2) 具体的な実施手順を明確化

主催者から提出される実施計画書に基づき、見学会を円滑に運営するための手順について詳細な内容を確認し、実施要領に明記しています。

●実施要領の主な記載内容

・先導者（車両）等の手配
・説明資料等の準備
・中止基準の確認方法（前日・当日・実施中）
・緊急時の対応（連絡体制）

(3) 同行職員の任務や連絡体制等を明確化

体感バス（通常便）の他、通り抜け運行実施の際は、長岡国道事務所が担当する区間の他に、新潟県・福島県が担当する区間も通行するため、両県とも連携を図り、体制や移動時の留意事項、説明内容等の役割分担を定めたガイドマニュアルを作成し、関係者に周知しています。

●同行職員用ガイドマニュアルの主な記載内容

・同行職員の任務、連絡体制、所持品
・事前準備の内容と実施方法
・移動時の留意事項、説明要領（箇所別に具体化）
・Ｑ＆Ａ（よくある質問）、工事箇所（進捗状況）

(4) その他の協力内容と対応状況

前述の計画準備に関わる資料（図面・写真）等の提供の他、次の点についての協力を実施しています。

・事業説明箇所や見学コース（ルート）の選定
・説明用の看板やパネル、安全施設の設置
・関係者（同行職員等）に対する事前説明
・現場見学会前日と当日の催行可否の確認と調整
・現場見学会当日の先導や事業の説明
・主催者が現地に設置する仮設トイレ等のスペース
・主催者がツアー参加者へ配付する記念品用の材料（トンネル貫通石　等）の提供
・施工業者の協力を得て模型・材料等のサンプル設置

なお、工事現場（工事用ゲート）内においては、車のヘッドライトを点灯し走行速度を25～30km/h程度とすることと、車内においてもヘルメットの着用を義務付けているため、体感バス等の現場見学会ツアーについても同様の対応を実施しています。

4. 現在までの実施状況

体感バスは、2013年に運行を開始してから昨年まで、7年間運行しております。

開始当初は三条市のみの運行で、初年度は予想を超える反響があり、キャンセル待ちが300名に達したこともあったとのことです。

翌2014年は前年の実績も踏まえ、マイクロバスの台数を増やしたことで参加者が大幅に増加しました。

しかし、3年目、4年目になると参加率が低下し、特に夏場の8月、9月は定員に対する参加率が25%と、大幅に落ち込みました。

しかしその後、只見町や檜枝岐村に宿泊する通り抜け便が運行されると『八十里越の効果、利便性をより実感できる』と大好評を博し、参加率は97%と大幅に増加しました。特に全国的に知名度があって人気のある檜枝岐歌舞伎を鑑賞するコースは、定員に対し約3倍の申し込みがあったと報告されております。

現在では、只見町が主催する現場見学ツアーも含め、年間60便（マイクロバスの台数）1,000人以上の参加者（天候不良で中止となった場合を除く）があり、運行を開始してから2019年度までの参加者は延べ10,000人を超えました。

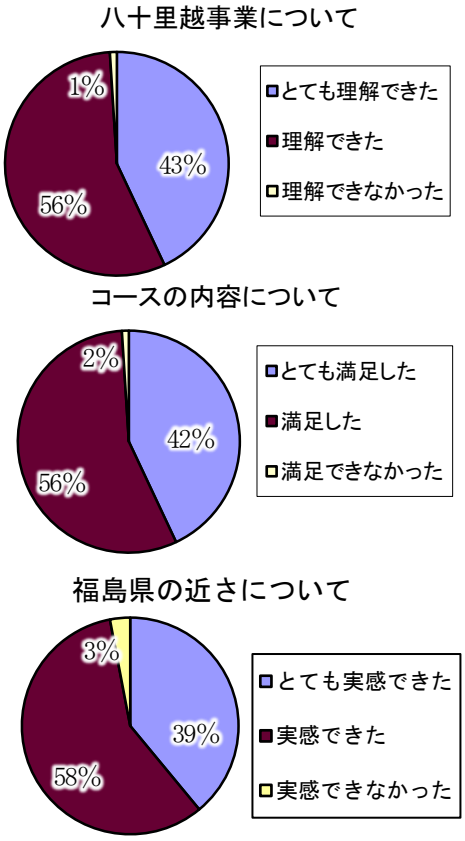
ツアー参加者への昨年のアンケート結果では、バスツアーのコース内容について99%以上の方が「満足した」と回答し、八十里越事業については98%の方が「理解できた」と回答しました。また早期開通を願う声が多く寄せられ、バスツアーを通して八十里越事業への理解と協力、土木技術の継承・啓発につながる、一定の効果が得られているのではないかと評価しております。中には、毎年工事が進んでいく状況を見るのを楽しみに参加されるリピーターの方もいます。これらの取り組みにより周辺地域の交流人口が増加し、運行開始後5年間で集合場所となっている道の駅の利用者数は87万人を超え、また三条市下田地域の入込客数の増加等の波及効果が確認さ

表-1　2013～2019　7年間の実施状況

実施年度	便数（台）	参加者数（人）
2013 平成25年	65	1,351
2014 平成26年	116	2,856
2015 平成27年	85	1,561
2016 平成28年	55	819
2017 平成29年	62	1,090
2018 平成30年	63	1,177
2019 令和元年	62	1,211
合計	508	10,065

れています。

今年度は、新型コロナウイルス感染症対策によって、前半の現場見学会が中止となっておりますが、8月30日以降の後半については、49便、定員566人程度での実施を予定しているところです。



■アンケートに寄せられた感想

・工事の様子がよくわかり、目的や規模が理解できた。
・事業の壮大さに驚き、関係者の苦労がわかった。
・道をつなぐ仕事の大変さがわかった。
・国、県、市の連携が素晴らしいと思った。
・市民ガイド、国交省の説明がわかりやすかった。　等

■アンケートに寄せられた意見

・八十里越以外の土木構造物も見学してみたい。広く情報発信されることを期待したい。
・早く全線開通させてほしい。
・見学場所の確保を期待。（雄大な自然、立ち向かう日本人の技術者の苦労を知るため）
・体感バスは今後とも継続してほしい。　等

図-2　アンケート結果

5.　今後へ向けた期待

八十里越事業は、早期供用への期待も大きく、事業完成（供用開始）に向け鋭意施工中でありますが、未完成の部分も多く残っており、大規模構造物だけでもトンネル3本、橋梁3橋の他、スノーシェッドや斜面対策工等について、今後、通行規制を伴う施工を実施する必要があります。

また、長岡国道事務所担当区間以外の新潟・福島両県担当区間についても、通行規制が必要な工事があることから、休工日となる日曜日であっても物理的に通行できない可能性があります。

しかし、先般報道された内容によると、昨年まで三条市と只見町で開催していた「八十里越道路暫定活用検討懇談会」に、南会津町が加わり「越後・南会津街道観光・地域づくり懇談会」として設置され、沿線地域の広域観光連携を進めていくとされており、地域の期待は高まっています。

今後は、早期完成に向けた工事工程等の検討と併せ、体感バス等の運行についても、三条市・只見町と調整を図り、相反する課題に対応して、慎重かつ柔軟に対処していきたいと考えています。

6.　おわりに

八十里越事業は、1978（昭和53）年度に調査開始して依頼、既に42年の歳月が流れ、時代も昭和・平成・令和と変わりました。閉ざされたゲートの山奥で、着々と事業は進められてきましたが、一般の方には目につかなかったかもしれません。

三条市の体感バスが始まったことで、一般の方々にも参加できるようになり、より八十里越を身近に感じていただけたものと考えています。

本論文では、地元自治体が主催者となり実施している体感バス等について報告しましたが、長岡国道事務所では担い手確保の観点から学生（大学生、高専生、高校生）の現場見学会を積極的に実施しています。これからも現場見学会（体感バスツアー）等を通じて、地元など関係各位のご理解とご協力をいただきながら、「八十里越を翔る」と題した、新潟県と福島県を結ぶ新しい道路によって、通行不能区間を解消し、地域間の交流・連携を促して、更には救急救命体制の向上にも寄与できるよう、事業を進めていきたいと思います。